

① 住みやすい生活環境の整備について

住みやすい生活環境とは、安全で安心できる居住環境、また、清掃・美化活動による清潔で美しい居住環境、医療、教育環境、インフラ関係の充実など住みやすさの基準は一人ひとり違うが、すべての住民がそう感じる環境整備は様々な面からも有効と考える。昨今、町民総歩きで健康を目的に楽しむ人、お世話になった社会に貢献の気持ちを持ってボランティア活動をする人、自治会活動を快く引き受け頑張る人。それぞれが長与愛を前面に日々の生活を楽しんでいるように感じている。しかし、佐世保市で起こったガードパイプの老朽化により高齢者が重傷を負う事故があったように、生活の基本である安心して過ごせる町のはずが、危険箇所が見受けられるなど、安全面での不安や説明不足のまま仕組みが変わったことで戸惑う声を聞く。今以上に住みたくなる町にしていくためにも以下の質問の中で将来のまちづくりを考えたい。

- (1) 自治会のあり方が注目されている。毎年11月は「自治会加入月間」だが、自治会を存続させていくには、まず加入促進が必要と考える。これまでの加入促進の活動の現状と課題は何か。本年度の取り組みはどのようなものか。また、その効果をどう見込んでいるか。
- (2) 自治会が直面する問題は、自治会について住民の理解や関心が薄いことだけでなく、それぞれの世帯の構造変化から生じてくる問題が根底にあると思う。今後、継続は可能と考えているか。新しい仕組み作りが必要ではないか見解を伺う。
- (3) 行政が担う業務の一部を自治会へ委託するケースがある。しかし、自治会加入者数が減少している中、役員は委託された業務の負担が集中することも少なくない。このような状況をどう考えるか。
- (4) 大村湾沿岸や河川付近の清掃ボランティアを募集するなど町としても美化活動に力を入れている。また、日頃の清掃活動など個人的に協力している人もおられる。今後、期待することは何か。
- (5) 住みやすい生活環境（害獣対策・地域づくり・まちづくり支援など）の整備を図るため、地域おこし協力隊の制度活用は多くのメリットが考えられるが見解を伺う。